

新資源化施設の整備（建替え）について

資源リサイクルセンター敷地内にある不燃ごみ選別施設及び容器リサイクル施設（以下「資源化施設」という。）は、老朽化が進行しているため、新たな資源化施設（以下「新資源化施設」という。）の整備（建替え）を行う。

1. 資源化施設の現状（設備内容）

- ・不燃ごみ選別施設 平成3年稼働（34年経過）
不燃・粗大ごみ選別設備
- ・容器リサイクル施設 平成9年稼働（28年経過）
びん・ペットボトル選別・圧縮設備
缶選別・圧縮設備

2. 資源リサイクルセンターごみ処理関連施設整備位置図 別紙

不燃ごみの効率的な資源化を図るため、現ごみ処理施設の解体後の跡地に、新資源化施設を整備する。

3. 今回整備する新資源化施設の概要 参考資料

- ・建築面積 約2,300㎡
- ・延床面積 約4,200㎡（2階建、S造（一部SRC造））
- ・設備内容（最新の機械設備に更新するとともに、一部設備等を新たに追加）
不燃・粗大ごみ選別設備
びん・ペットボトル選別・圧縮設備
缶選別・圧縮設備
不燃・粗大ごみ破碎設備、金属類選別設備（追加）
環境学習用見学通路（追加）
- ・事業費 約56億円

4. 新資源化施設の整備による効果

- ・不燃・粗大ごみ破碎設備を導入すること等により、これまで、埋め立て処理していた不燃・粗大ごみ搬入量（約2,500t／年）に対する資源化率が向上し、埋立量が削減できる。
また、アルミや鉄類の選別回収が進むことで資源物売払収入額が増加する見込み。

現状 資源化率 約10% (鉄類、小型家電)

建替え後 資源化率 約40% (鉄類、小型家電、アルミ、プラスチック)

- ・不燃ごみの搬出先を1箇所を集約することにより市民の利便性が向上する。
- ・室内作業となることで、周辺環境が向上する (騒音、粉じん等の低減)。
- ・見学通路を導入し、市民や小学生の見学を受け入れることで、循環型社会形成に向けた啓発を強化する。

5. スケジュール

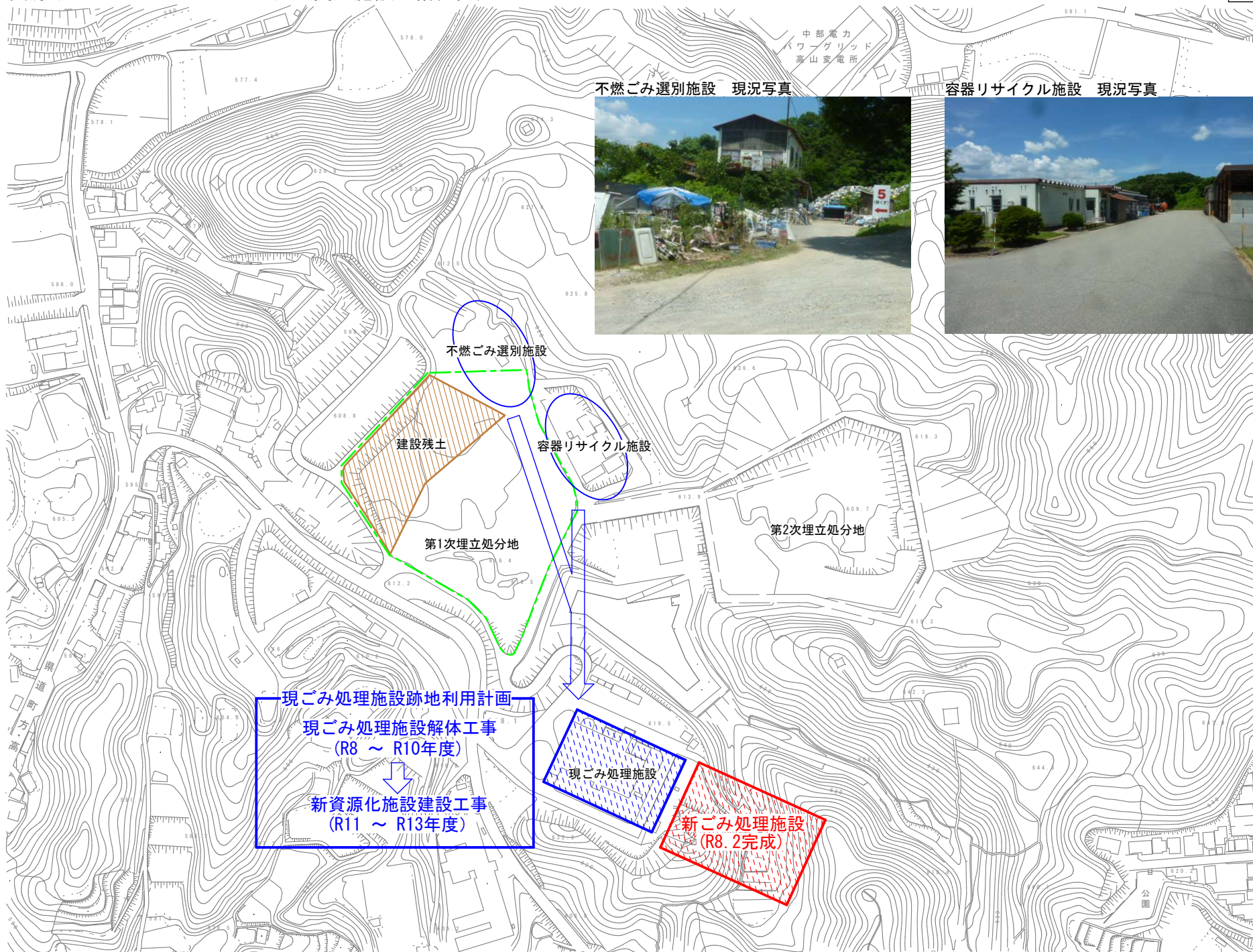
年度	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13	R 14
現ごみ処理施設解体工事							
新資源化施設基本設計 環境影響評価 仕様書作成、業者選定							
建設工事							
新資源化施設稼働							

6. その他

第1次埋立処分地の跡地利用については、ごみ処理施設建設等に係るランドデザイン (平成28年8月基盤環境委員会報告) に基づき、「再生」「にぎわい」「やすらぎ」の3本柱を基本コンセプトとし、公園の整備について新資源化施設の整備にあわせて検討を行う。

なお、令和8年度については、ごみ処理施設建設工事により発生した建設残土による整地を行う予定である。

資源リサイクルセンターごみ処理関連施設整備位置図



資源化施設の概要 フローシート(参考)

参考資料

